

平成26年度発がん性評価について (IARC2B以上相当抜粋)

No.	番号	CAS No.	物質名	評価機関	評価結果	評価年	動物試験文献 (「#」は個票の文献番号 年次は公表年次)					判定	追加文献 等による 判定理由	検討結果 (IARC 1-2B相当 , 2B相当ではない × , 判断できない の3つに区分)				
							#1	#2	#3	#4	#5			文献概要				
														文献 No.	文献	供試物質	動物種・雌雄	についての試験結果
1	C-1002	88-73-3	0-クロロニトロベンゼン	IARC	3	1996	1997	1997				発がんの十分な証拠	#1	日本バイオアッセイ研究センター2年間経口試験	同左(物質名欄に同じ)	ラット 雌雄	肝細胞癌、肝細胞腺腫	がん原性指針対象物質(H23.10) 変異原性指針対象物質(H13.3) ・指針検討の措置検討会(22.3.6)でリスク評価候補とした(22.7.9の企画検討会で、通知対象物質でないことから、選定せず)
												#2			マウス 雌雄	肝芽腫、肝細胞癌、肝細胞腺腫		
10	C-2154	135-20-6	アンモニウムN-ニトロソフェニルヒドロキシルアミン	NTP	R	1978	評価書のみ確認					発がん性の十分な証拠		NTP評価書(評価はR: reasonably anticipated to be a human carcinogen)で引用しているNCI Technical Report 100のデータ(1978)	同左(Cupferron)	ラット・マウス雌雄(feed,78週)	blood-vessel cancer (hemangiosarcoma血管肉腫 or hemangioma血管腫)	・NTPは実験動物での十分な証拠があることを根拠にRと評価 ・ラット・マウス雌雄に悪性腫瘍
															ラット雌雄 マウス雌 (feed,78週)	liver cancer (hepatocellular carcinoma肝細胞がん)		
															ラット雌 マウス雌 (feed,78週)	carcinoma of the auditory sebaceous gland(耳の皮脂腺のがん)		
															ラット雌雄 (feed,78週)	forestomach cancer (squamous-cell carcinoma)前胃鱗状細胞がん		
															マウス雌(feed,78週)	benign tumors of the Harderian gland(adenoma)ハーダー腺の良性腫瘍		
15	C-1097	409-21-2	炭化ケイ素	ACGIH	A2	2003	評価書のみ確認					(IARC 2B以上)		IARC専門家会合で次のように評価された(2014年10月) ・Silicon carbide, whisker 2A ・Silicon carbide, fibrous 2B	-	-	-	・通知対象物質 ・既にIARCで評価済み(モノグラフ111により刊行予定)となっているため、検討対象外

No.	番号	CAS No.	物質名	評価機関	評価結果	評価年	動物試験文献 (「#」は個票の文献番号 年次は公表年次)					検討結果 (IARC 1-2B相当, 2B相当ではない ×, 判断できない の3つに区分)							
							#1	#2	#3	#4	#5	判定	追加文献 等による 判定理由	文献概要					
														文献 No.	文献	供試物質	動物種・雌雄	についての試験結果	備考
43	C-2146	650-51-1	トリクロロ酢酸ナトリウム	ACGIH	A3	2009	評価書のみ確認						発がん性の十分な証拠	1	ACGIH評価書(トリクロロ酢酸)の引用: Toxicol. Appl. Pharmacol 90(2):183-189 (1987) (Herren-Freundら)	TCAA (トリクロロ酢酸) CAS 76-03-9)	マウス雄(飲水,61週)	肝臓腫瘍増加 (hepatocellular carcinomas and adenomas)	2つの試験で雄マウスのみ肝腫瘍増加(ラットの発がん性はないと記載。2論文ではマウスのみ発がん) トリクロロ酢酸は通知対象物質。IARCモノグラフ106を踏まえて25年12月にばく露作業報告対象物質として告示済み(=リスク評価対象)
														2	同上: Toxicology 63:341-359 (Bullら) (1990)	TCAA	マウス雄(飲水,1年)	hepatocellular nodules and proliferative lesions肝細胞結節と増殖性病変	
														3	IARCモノグラフ106が引用している試験(P402-406,429) マウス雄への飲水投与4試験(うち2試験は上記2試験に同じ) マウス雌への飲水投与2試験等	同左(トリクロロ酢酸)	左記のうち、上記以外の試験 1)マウス雄(飲水・52週)(Bullら 2002) 2)マウス雄(飲水・60/104週)(DeAngeloら 2008) 3)マウス雌(飲水・360/560週)(Pereira, 1996) 4)マウス雌(飲水・31/52 560週)(Pereira & Phelps, 1996)	これら6試験が increased incidence of hepatocellular adenoma (肝細胞腫瘍) and/or hepatic carcinoma (肝細胞がん)を示す、ととりまとめ(5.3(P429))、これらを踏まえて sufficient evidence と評価(P430)	
54	C-2150	88-06-2	2,4,6-トリクロロフェノール	EPA NTP EU	B2 R 3	1994 2011	評価書のみ確認						発がん性の十分な証拠	1	NCI TR155 (1979) Bioassay of 2,4,6-Trichlorophenol	同左	ラット(feed 106-107週)マウス(feed,雄105週,雌38週)	・雄ラット発がん(lymphomas or leukemias)リンパ腫又は白血病) ・雌雄マウス発がん(hepatocellular carcinoma or adenomas)	ラットにリンパ腫・白血病、マウスのliver cell carcinomaなので(津田委員)
														2	EPA IRIS Carcinogenicity assessment:B2 (last revised 1994)	同左	同上	同上	上記NCI 試験を引用し、B2 (probable human carcinogen)と評価
														3	NTP評価書Report on Carcinogens, Twelfth Edition (2011)	同左	同上	同上	上記NCI 試験を引用し、R (reasonably anticipated to be a human carcinogen)と評価